

第1学年 国語科学習指導案

書式は学校の指定に合わせて調整してお使いください。

日 時 令和 年 月 日 () 第 校時
場 所
指導者

1 単元名

「すきなところをつたえよう」 教材名「スイミー」

2 単元の目標

語のまとまりや言葉の響きに注意して、好きな場面を音読できる。場面の内容と自分の経験を結び付けて感想をもち、好きなところを友達と共有できる。言葉の働きを確かめ、友達との交流を基に自分の学習を見直そうとする。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①語のまとまりや言葉の響きに注意して、好きな場面を音読している。 (〔知識及び技能〕(1)ク)	①「読むこと」において、場面の内容と自分の経験を結び付けて感想をもち、好きなところを友達と共有している。(C(1)オ・C(1)カ)	①学習の見通しをもち、単元で確かめたいことに進んで取り組み、友達の言葉や自分の記録を基に、読み方・表し方を見直そうとしている。

4 指導上の考察

(1) 単元について

スイミーの行動や場面の様子を確かめ、好きなところを自分の経験や見聞きしたものと結び付けて伝える。協力の教訓を全員に言わせず、児童がどの場面をどんな理由で選んだかを大事にする。学習指導要領のC(1)オ・C(1)カを中心に据える。関連する知識・技能として〔知識及び技能〕(1)クを、言語活動の中で確かめる。

(2) 児童について

(学級の子どもの様子を先生が書く)

(3) 指導について

選んだ場面の言葉を確認、本文での出来事と自分の経験を分けて話す。直接の経験がない児童は絵本や読み聞かせで見聞きしたものと結び付けてよい。おおむね満足できる状況は、場面の内容と自分の経験を結び付けて感想をもち、好きなところを友達と共有しているという姿で捉える。語句や本文を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確かめる支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。

5 指導と評価の計画（全11時間）

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1～2	○全文を読み、人物と出来事、初めに好きだと思った場面を確かめる。	学習状況を見て支援する。
第2次	3～4	○前半の行動や海の様子を読み、思い浮かんだことを話す。	知①（語句や内容の整理）
	5～6	○後半の出来事を読み、前の場面と様子がどう違うかを確かめる。	学習状況を見て支援する。
	7	○好きな場面を選び、自分の経験や見聞きしたこととの関係を考える。	学習状況を見て支援する。
	8 （本 時）	○好きな場面と理由を伝え合い、友達の感想を聞く。	思①（発言・学習記録）
	9～10	○紹介カードを作って読み合い、選んだ場면을音読する。	学習状況を見て支援する。
第3次	11	○初めの感想と比べ、好きなところを伝え合って気付いたことを振り返る。	態①（学習前後の記録・振り返り）



6 本時の指導 (8/11)

(1) 本時の目標

場面の内容と自分の経験を結び付けて感想をもち、好きなところを友達と共有できる。

(2) 学習過程

段階	学習活動 (○主な発問) ・予想される児童の反応	指導上の留意点 (◎評価)
導入 (分)	本時に使う教材・前時までのノートを確認め、自分の最初の考えを短く書く。 ○「好きだと思ったのは、どの場面ですか。そこを読むと、自分が経験したことや見たことの何を思い出しましたか」 【めあて】スイミーの行動や場面の様子を確認め、好きなところを自分の経験や見聞きしたとことと結び付けて伝える。 〈予想される児童の反応〉 ・一人でのいる場面と仲間がいる場面で感じ方が異なる。	本時に考える対象を確認し、既に確かめたことと、今日確かめたいことを分ける。児童の最初の言い方を残し、まとめて比べられるようにする。
展開 (分)	○「好きだと思ったのは、どの場面ですか。そこを読むと、自分が経験したことや見たことの何を思い出しましたか」 自分で言葉や本文の箇所を確認め、理由を添えて考えを書く。ノートを示して説明し、聞き手は確かめたところと、まだ確かめたいところを返す。全体では考えが分かれた箇所を取り上げ、何を根拠にしたかを比べる。 〈予想される児童の反応〉 ・一人でのいる場面と仲間がいる場面で感じ方が異なる。 ・きれいな様子を読むと自分が見た海を思い出す。 ・友達が選んだ場面も読み直したくなった。	選んだ場面の言葉を確認め、本文での出来事と自分の経験を分けて話す。直接の経験がない児童は絵本や読み聞かせで見聞きしたとことと結び付けてよい。 想定する難しさ：最後の場面だけが好きと言わなければならないと思う。本文にない出来事を体験談から足す。 児童の考えを教師の想定した言い方にそろえない。理由が確かめられる考えは残し、根拠が異なるときはその違いを板書する。 ◎思① 場面の内容と自分の経験を結び付けて感想をもち、好きなところを友達と共有している。(発言と学習記録)
まとめ (分)	【まとめ】今日確かめた言葉や表現と、それによって確かめたことを対応させて自分の言葉でまとめる。 学習前の考えと比べ、付け加えたこと、残したこと、その理由を記す。 〈予想される児童の反応〉 ・友達の考えを聞いて、自分の理由を詳しく説明できた。 ・友達が選んだ場面も読み直したくなった。	まとめの文を先に与えて写させず、児童が本時に扱った実際の言葉を入れる。書くことが難しい場合は口述を記録する。次の学習では、その記録を使って紹介や説明の文章を直す。 ◎態① (学習前後の記録と、見直した理由)

(3) 板書計画（縦書き・右から左へ）

右端に題名と本時のめあて。その左に問い「好きだと思ったのは、どの場面ですか。そこを読むと、自分が経験したことや見たことの何を思い出しましたか」。中央は根拠となる言葉・本文の箇所と、そこから考えたことを上下に対応させる。根拠の本文は先生が教科書から書き入れる。中央から左に児童の考えを並べ、同じところを囲み、違いの理由を線で結ぶ。左端に、本時で確かめた実際の言葉を含むまとめと、考えを見直した理由を書く欄を置く。縦書きで右から左へ学習の順をたどれるようにする。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」 (@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

